



「忘れ得ぬ光景」

前橋市総合教育プラザ
館長 金井 幸光

「見て見ておじさん、この蝶々！ 僕がさっきそこで捕まえたんだよ！」

大事そうに蝶々を手に持ち、ひとりの園児が駆け寄ってきました。

前橋市内のとある市立幼稚園を訪問させていただいた時の光景です。

なぜかその時の光景が、今でも私の記憶の奥深くに鮮明に残り、色褪せることはありません。ごくごく普通の蝶々でしたが、その子のキラキラとした瞳の輝きが、人の「豊かな成長」というものを、真っ直ぐに教えてくれた気がしてならなかったからなのかもしれません。

可能性に満ちた子どもの「豊かな成長」の姿は、さらに続きます。

「ここ見ておじさん、羽の周りがちょっと黒いでしょ。だからこれはヤマトシジミ。黒がもっと多いのはムラサキシジミ、昨日あの花のところで〇〇先生と一緒に捕まえたんだ！」と得意顔。もう立派なミニ昆虫博士です。「すごいね。何でそんなに詳しいんだい？」と尋ねると、「こっちは来て！」と手を引きあるところへ。そこには使い込まれた昆虫図鑑が。その図鑑でさらに意気揚々と解説。他の仲間たちも自然と集まり、小さな天使たちの好奇心はとどまる所を知りません。実はこの図鑑、先生方がさり気なく置いたものだったのです。「子どもたちがそろそろ園庭の昆虫を捕まえ、その特性も知りたがる時期」、そう見通しての環境構成でした。子どもたちの主体性を大切にする先生方、子どもたちが“図鑑を見つけたのは自分だ”と思い、主体的に調べるようにと、子どもたちが目にしそうな場所へそっと置くという仕掛け。子どもたちの成長を願い、日々、一人一人を温かく丁寧に育ててくださっている先生方の教育的配慮です。無味乾燥に蝶々の特徴を覚えさせたりしない。「自分で捕まえた蝶々」や「自分で見つけた図鑑」「仲間との交流」の中で子どもたちが自ら胸の奥深くに刻んだもの、それは、表面的な暗記などとは全く別次元の確かなもの。そして、めぶいた生き物への知的好奇心は一生もの。ふと園庭を見渡すと、たくさんの子どもの「豊かな成長」の光景が広がっていました。砂場に作った自慢の秘密基地まで水道の水を引き込もうと目を輝かせている三人。心理的安全性のある中、仲間と意見を戦わせ、失敗とチャレンジを繰り返しながら、様々な道具を使って何とか水を引き込もうと躍起です。前橋の教育が目指す人間像「多様な人と協働しながら、主体的・創造的に社会を創る人」、その“めぶき”を感じたひと時でした。「私たち大人の役割は、子どもたちのもつ関わる力、学びとる力に信頼を寄せ、適切な環境を保障すること。その上で必要な手を差し伸べること」、ある教育の専門家の言葉も重なります。前橋の子どもたちのさらなる成長のために、日々、誠心誠意取り組んでくださっている全ての先生方、関係者の皆様に、心から感謝いたします。